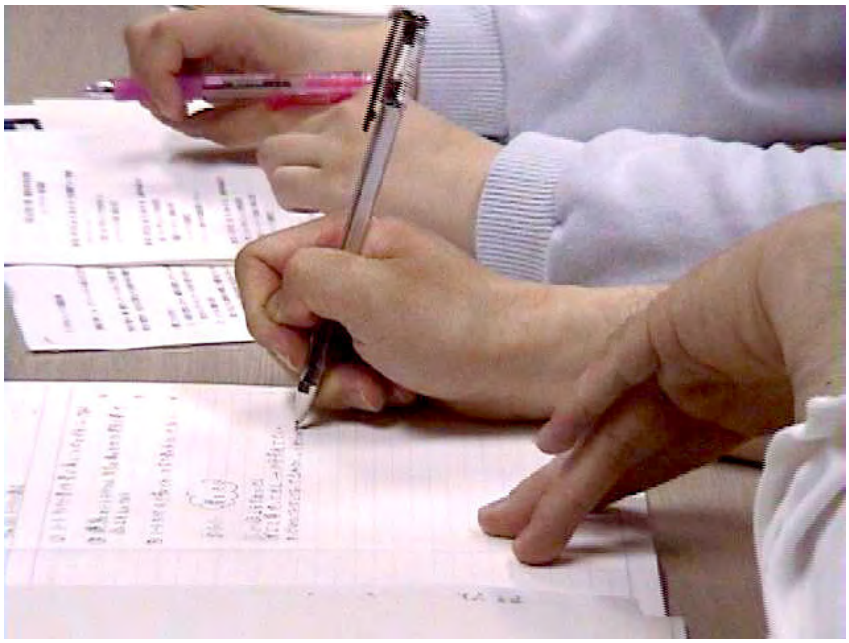
PEPNet-Japan

ノートテイカー指導者養成講座



日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan)

2006 年 9 月 24 日(日) 10:00～17:00

於:日本財団ビル

多地点同時開催会場:同志社大学、愛媛大学、金沢大学

PEPNet-Japan は日本財団の助成により運営されている PEN-International(本部:ロチェスター工科大学 NTID 内)の活動の一部で、筑波技術大学によって運営されています。

日本財団 The Nippon Foundation

PEN INTERNATIONAL

ノートテイカー指導者養成講座

■ 主　催　　日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）

■ 協　力　　同志社大学、愛媛大学、金沢大学、筑波技術大学

■ 期　日　　2006 年 9 月 24 日(日)　10：00～17：00

■ 会　場　　日本財団ビル（東京都港区赤坂 1 丁目 2 番 2 号）

■ 多地点同時開催会場

同志社大学　今出川校地明徳館 1 教室（M1）（京都府京都市上京区今出川通烏丸東入）
愛媛大学　　メディアホール（愛媛県松山市文京町 3 番）
金沢大学　　角間キャンパス総合教育棟 D10 講義室（石川県金沢市角間町）

■ プログラム

9:30　受付開始
10:00　開講式
10:10　①ノートテイカー養成の基礎
11:10　②情報保障の意義と聴覚障害理解
12:00　昼食休憩
13:00　③ノートテイクの基本
13:50　④ノートテイクの実践
14:50　⑤ノートテイクのルールとマナー
15:40　⑥ノートテイカー養成の実際（ノートテイクの評価項目、講座の開催方法）
16:30　質疑応答
17:00　終　了

■ 講 師

太田晴康（静岡福祉大学情報福祉学科）
瀬戸今日子（同朋大学学生課障害学生支援室）
白澤麻弓（筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター）
吉川あゆみ（関東聴覚障害学生サポートセンター）
田中啓行（関東聴覚障害学生サポートセンター）
中島亜紀子（関東聴覚障害学生サポートセンター）

資 料

①ノートテイカー養成の基礎

筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター　白澤麻弓

②情報保障の意義と聴覚障害理解

―　障害学生への理解と情報保障について

関東聴覚障害学生サポートセンター　吉川あゆみ

―　ノートテイクの利用体験

関東聴覚障害学生サポートセンター　中島亜紀子

③ノートテイクの基本

関東聴覚障害学生サポートセンター　中島亜紀子

④ノートテイクの実践

関東聴覚障害学生サポートセンター　中島亜紀子

⑤ノートテイクのルールとマナー

関東聴覚障害学生サポートセンター　田中啓行

⑥ノートテイカー養成の実際（ノートテイクの評価項目、講座の開催方法）

―　講座をきっかけに

同朋大学学務課障害学生支援室　瀬戸今日子

―　ノートテイクの評価

静岡福祉大学情報福祉学科　太田晴康

PEPNet-Japan Supported by PEN-International & Nippon Foundation

①ノートテイカー養成の基礎

筑波技術大学
障害者高等教育研究支援センター
白澤麻弓

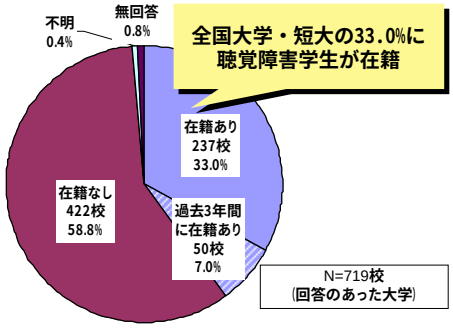
PEPNet-Japan Supported by PEN-International & Nippon Foundation

■ 講義の流れ

- 聴覚障害学生支援の全国的状況
  - 聴覚障害学生の在籍
  - 支援体制の構築
  - ノートテイカーの養成
- ノートテイカー養成カリキュラム
  - 本カリキュラムの概要
  - 利用方法

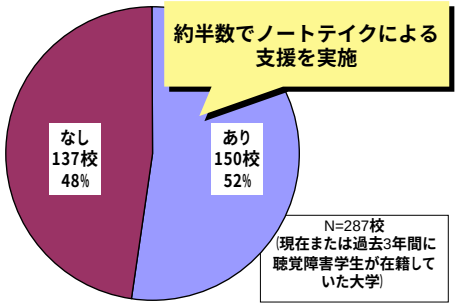
PEPNet-Japan Supported by PEN-International & Nippon Foundation

■ 聴覚障害学生の在籍



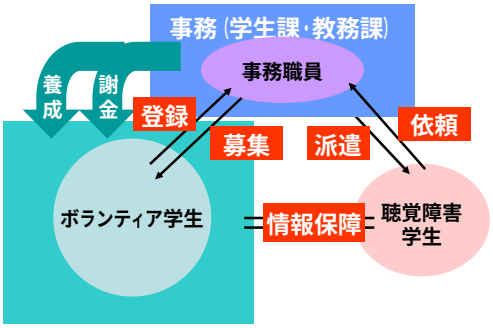
PEPNet-Japan Supported by PEN-International & Nippon Foundation

■ 聴覚障害学生に対する支援(ノートテイク)



PEPNet-Japan Supported by PEN-International & Nippon Foundation

■ ノートテイクによる支援体制の例



PEPNet-Japan Supported by PEN-International & Nippon Foundation

■ 支援体制の構築過程

PEPNet-Japan Supported by PEN-International & Nippon Foundation

■ スケジュール

4月	入学式 授業開始
5月	
6月	
7月	期末試験
8月	夏期休業
9月	

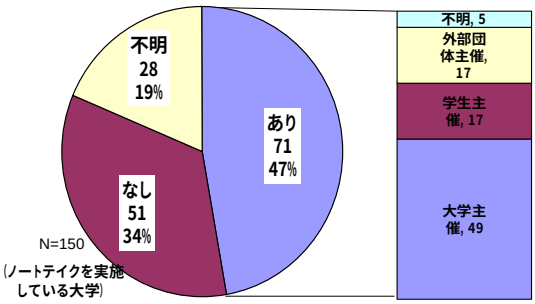
利用学生との面談

学習会の開催

懇談会の開催

PEPNet-Japan Supported by PEN-International & Nippon Foundation

■ノートテイカー養成講座の実施



PEPNet-Japan Supported by PEN-International & Nippon Foundation

■ 大学の授業内での養成

広島大学

障害者支援ボランティア概論
- 集中　3日間 (2単位)　障害に関する理解等

障害者支援ボランティア実習A・B
- 前期　15時間 (1単位)　技術講習
- 後期　15時間 (1単位)　講義での実習

ノートテイク活動
- 登録ボランティア学生として活動 (時給820円)

PEPNet-Japan Supported by PEN-International & Nippon Foundation

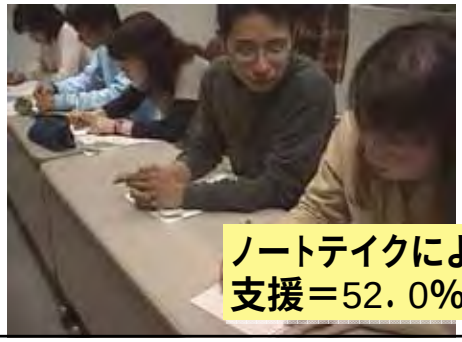
■ 年間を通した計画的な養成

同志社大学

4月	スタッフ登録・活動開始
5月	障がい学生支援制度概要説明会
6月	入門講座
7月	基礎講座 応用講座 懇談会
8月	
9月	スタッフ登録・活動開始
10月	障がい学生支援制度概要説明会 入門講座
11月	基礎講座
12月	
1月	懇談会

PEPNet-Japan Supported by PEN-International & Nippon Foundation

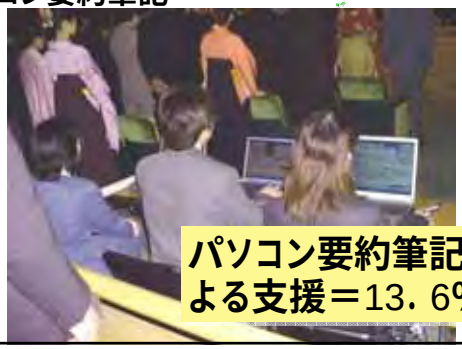
■ ノートテイク



ノートテイクによる支援＝52．0%

PEPNet-Japan Supported by PEN-International & Nippon Foundation

■ パソコン要約筆記



パソコン要約筆記による支援＝13．6%

PEPNet-Japan Supported by PEN-International & Nippon Foundation

■ 手話通訳

手話通訳による支援＝18．8%

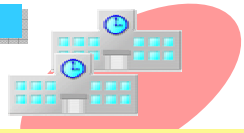
PEPNet-Japan Supported by PEN-International & Nippon Foundation

■遠隔情報保障

PEPNet-Japan Supported by PEN-International & Nippon Foundation

■ 支援体制の組織化

- サービス拡大
- コーディネーターの配置
- 支援に関わる規約の整備
- 恒常的予算の確保
- 障害学生支援委員会の設置



障害学生支援委員会の設置＝6~10%

聴覚障害学生への理解と情報保障について

関東聴覚障害学生サポートセンター
吉川あゆみ

さまざまな聴覚障害者

× 補聴器をつければ聞こえる

× ＦＭマイクで話は伝わっている

× 聴力が軽い＝難聴　聴力が重い＝ろう

× 聴力が重い人は手話を使う

× 自分とはスムーズに話せるから他の人とも・・・

聴覚障害の構成要素

- 失聴の時期
- 聴力
- 受けた教育
- 家族との関わり

→

- コミュニケーション手段
  - ・手話
  - ・口話
  - ・筆談
  - ・補聴器　など
- 望むサポート内容
  - ・手話通訳
  - ・パソコンテイク
  - ・ノートテイク　など

聴覚障害とは・・・

- 決定的なコミュニケーション手段を持たない
- 万能なサポート手段はない

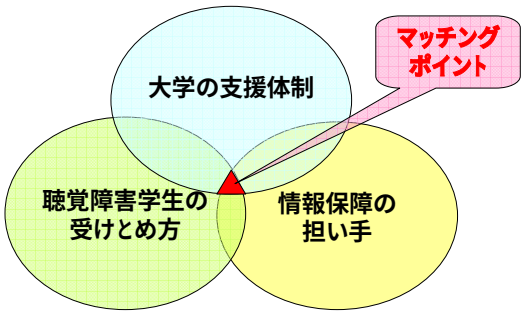
↓

- 状況に応じて必要なサポートが変わる
- 複数の多様なサポートが求められる

ノートテイクの特徴

- ノートテイクの長所：スタートしやすい
  短期間の養成で取り組める
  ノートテイクの短所：専門講義には不十分
- ノートテイクの長短を踏まえてサポートを
- 手話通訳・パソコン通訳からスタートする方法も
  →「条件が揃えば」効果が期待できる

サポートを構成する要素



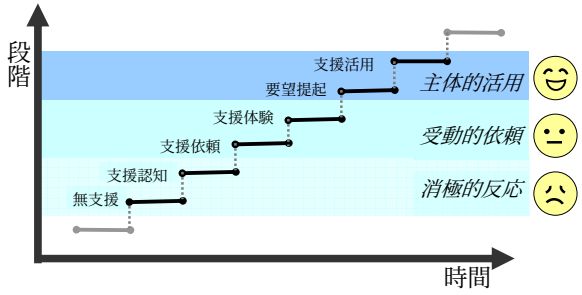
DVD「さまざまな聴覚障害学生」

- 日本福祉大学の聴覚障害学生6名
- 聴力
  → 軽度 ・ 中度 ・ 重度
- コミュニケーションの手段
  → 口話 ・ 手話 ・ 補聴器 ・ 人工内耳
- 高校までの教育環境
  → ろう学校 ・ 普通学校

サポートに対する受けとめ方の変化

- ステップ1：消極的反応
  →支援を躊躇・拒否する
- ステップ2：受動的依頼
  →受け身で支援を受ける
- ステップ3：主体的活用
  →積極的に支援を活用

サポートに対する受けとめ方の変化図



ステップ1：消極的反応段階

- 一度通訳をつけてみる
- 拒絶感の強い学生も多い
  →教師（講義担当者）からサポートを
- 自分に合う支援がないこともある

ステップ2：受動的依頼段階

- 「友達もやっているから」
  →親の会、ろう学校、学生懇談会で知る
  →同じ聴覚障害学生と交流する場を
- 要望をいかに引き出すか
  →実際のテイクノートをもとに聞く
  講義ごとの状況を聞く

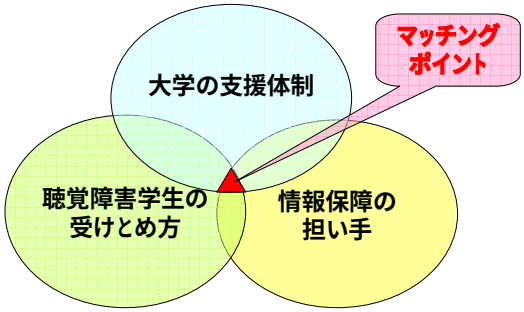
ステップ3：主体的活用段階

- 他の聴覚障害学生と意見交換
  →支援を客観視
- 養成・研修の場で話をお願いする
  →支援の質の向上に
- ステップ3に行ったら「終わり」ではない

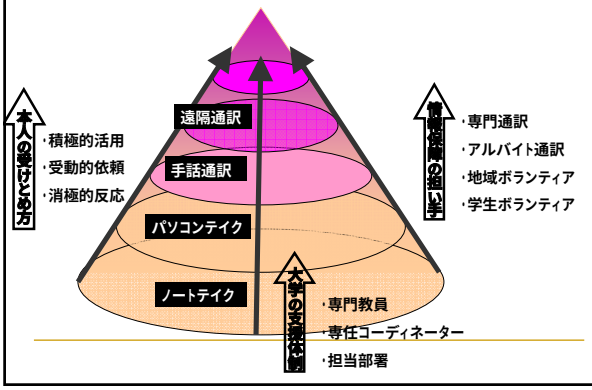
サポート環境による変化

- どの段階が良い悪いというわけではない
  →本人の意識だけでなく環境にも左右される

サポートを構成する要素



現時点における情報保障の様態



聴覚障害学生にとってのサポートとは

- 気が重い、面倒くさい　＜　わかる喜び

  →病院と似ている？

  →「手ごたえ」を感じることが次につながる

「わかる喜び」「知る楽しさ」を伝えよう！

- サポート　＝　生き方を提示する

- さまざまなサポートがある　＝　生き方を選べる

ノートテイクの利用体験

関東聴覚障害学生サポートセンター
中島　亜紀子

利用体験の目的

- 「文字を通して授業を受ける」という体験から得た気づきを、ノートテイクに生かす

↓

- 聞こえない人の疑似体験

利用体験の進め方（一例）

- ノートテイクを見ながら授業を受ける体験
- 音声情報がない状態で授業を受ける体験
- ノートテイクを受ける体験／書く体験
- 文字でコミュニケーションをとる体験

実際に利用者体験をしてみます

体験を整理する

Q．聴覚情報がない中で、自分はどんな情報がほしかったか、何を手掛かりにしたか

→ ノートテイクは、ノートの代筆やチューターではなく、「情報を保障する」ことが仕事であると気づく

体験を整理する

Q．手書きノートテイクから伝わる情報は遅れていたか

→タイムラグのあるノートテイクを使いこなすためには、利用学生の側も使い方に習熟する必要がある

体験を整理する

Q．ノートテイクがつくことで、先生の声を聞いているときと同じように受講できたか

→すべてを視覚情報に換えて伝えるのは大変な作業。
利用学生が安心して受講するためには、様々な工夫やルール作りが必要。

受講生の感想の例

先生の口をずっと見ていたので、ノートテイクに書かれているより、もっとたくさんのことをしゃべっているのではないかと思った。

ノートテイクを読めば、意味はわかるし、思ったより速く書いてくれていると感じたけれど、書かれていないことはどうやって知ればいいのだろうと思うと、複雑な気分になった。

ノートテイクでは漢字をカタカナで書いたり記号を作ったりしていて、ふつうのノートと違ったが、見ていればだいたい意味はわかった。

- 耳で聞くのと比べ、情報が省略されているのではとの感想。
  ↓
- 利用学生がそういった不安感を改称するために、ノートテイカーはどうしたらいいか、という投げかけを。

ノートテイクの利用体験

おわり

ノートテイクの基本

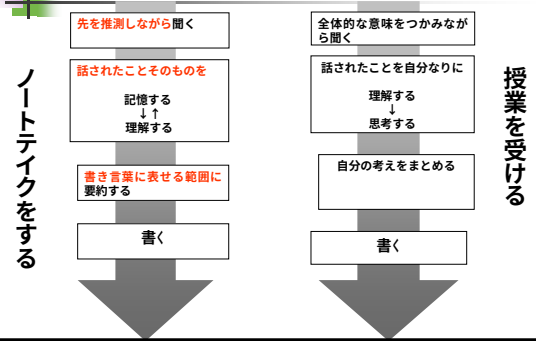
関東聴覚障害学生サポートセンター
中島　亜紀子

「ノートテイクの基本」

ノートテイク講座での学習のポイント

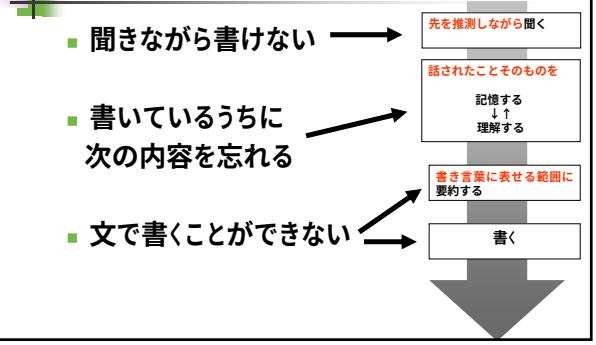
- ノートテイクを通訳作業として理解する
- ノートテイクの書き方のコツを知る
- ノートテイクの具体的なイメージを持つ

ノートテイクのプロセス



通訳作業でのつまずきの例

- 聞きながら書けない
- 書いているうちに
  次の内容を忘れる
- 文で書くことができない



ノートテイクの書き方のポイント

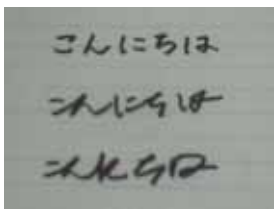
①見やすく書く

②話されたことに忠実に書く

③遅れずに書く

見やすく書く

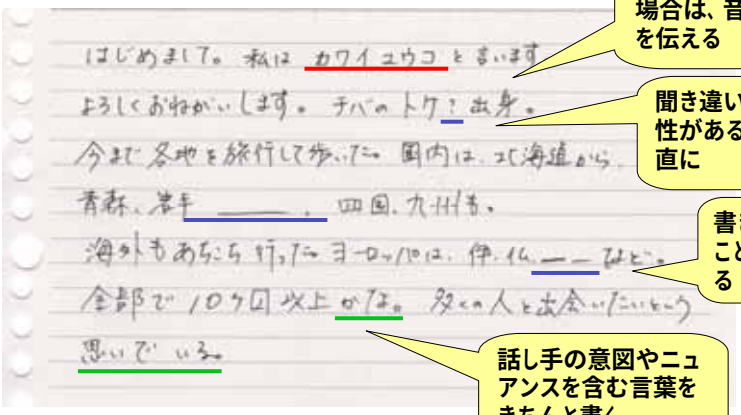
読める字、読みやすい字で書く



- きれい⇔きたない
  という視点ではなく
- 読める⇔読めない
  という、客観的な評価
  を受け入れる

忠実に書く

書き手の判断ではなく情報をそのまま



正確な漢字がわからない場合は、音（読み方）だけを伝える

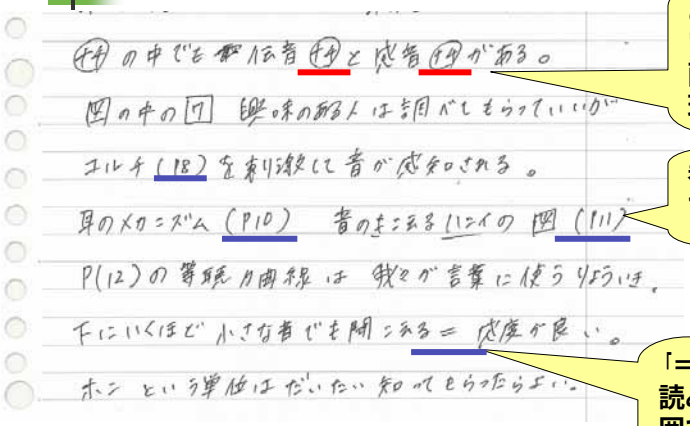
聞き違いの可能性がある場合も正直に

書き漏らしたことも明示する

話し手の意図やニュアンスを含む言葉をきちんと書く

遅れずに書く

遅れないの工夫・同時に伝える工夫



あらかじめ決めておいた記号を使って、画数の多い字を処理。

参照箇所を（ ）書きで端的に伝える。

「＝」記号で文を簡潔に。読み手が混乱しない範囲で記号を使用。

ノートテイク練習の進め方

実際の講座の方法に沿って

ノートテイクを書く（練習の進め方）

- 普通の話し言葉

↓

- 大学レベルの講義

↓

- 様々な授業形態にペアで対応する場面

↓

- 実際の授業場面（模擬授業・ノートテイク実習）

書かれたものを評価する

- 自己評価
- 受講生どうしの評価
- 利用学生の評価
（教材例を参照）

学習した内容を共有する

- 自分の書ける量を把握する
- 様々なノートテイクを見て参考にしあう
引き出しを増やす
- 様々な視点からの評価に触れて、ニーズの多様性を知る

ノートテイクの実際

関東聴覚障害学生サポートセンター
中島　亜紀子

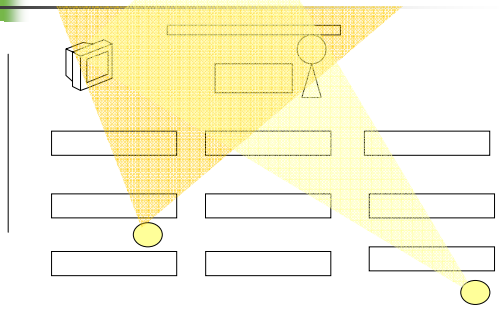
「大学の授業」という通訳現場の特徴

- 通訳する内容が、学習成果や評価に直結する
- 利用者が学生である
- 毎週繰り返し、同じ現場に行く

ノートテイク講座での学習のポイント

- 利用学生のニーズや授業形態に応じて情報保障の方法を選択する
- 通訳環境を改善する

Q．見やすい座席は？



Q．ノートテイカーは板書を写すべき？

→ 何が書かれているのか
　　キーワード　文　図　連絡事項

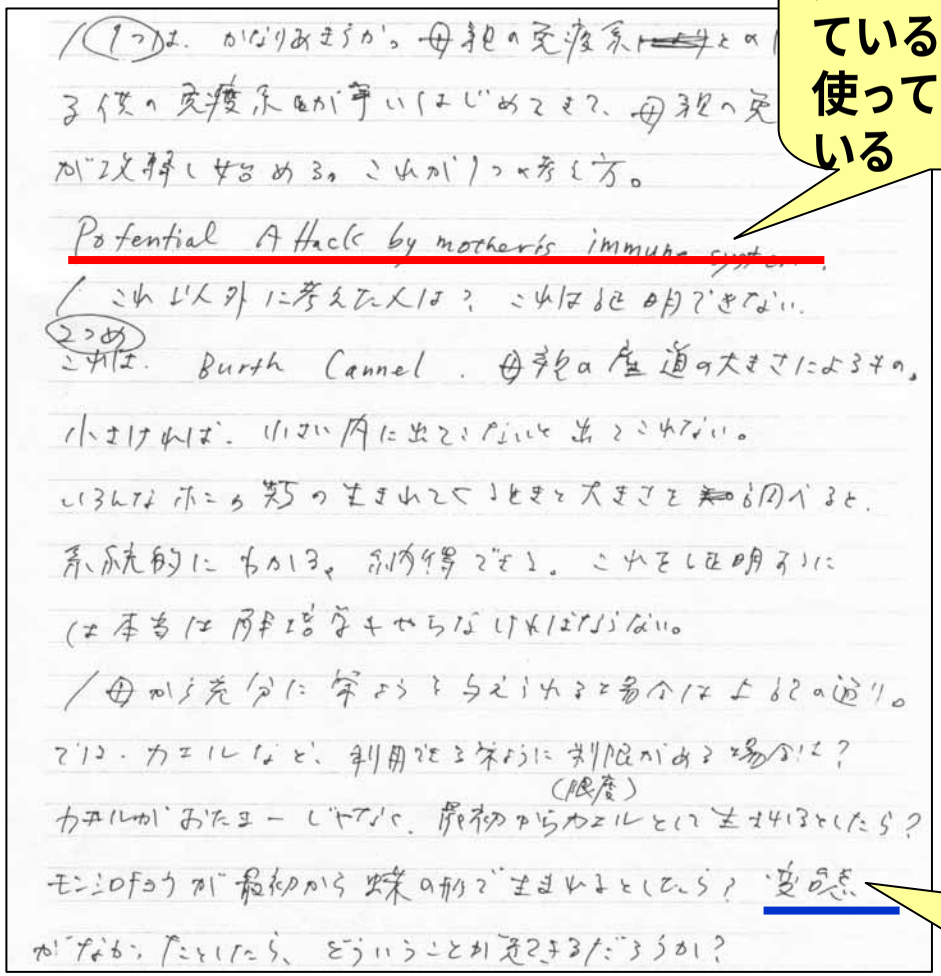
→ ノートテイクを書く上で必要な情報か

→ すぐに書く必要があるか

授業形態に応じた情報保障

断片的に単語や図が板書され、すぐに消されてしまう授業の例

（メインのノートテイカー）



先生が板書している時間を使って写している

（サブのノートテイカーのメモ）

時間に余裕のあるサブが正確に写している

日本語のみ書いている

板書された英語とノートテイカーが書いた日本語の対応がわかるように書いている

Q.パワーポイントの説明についていけないときは？

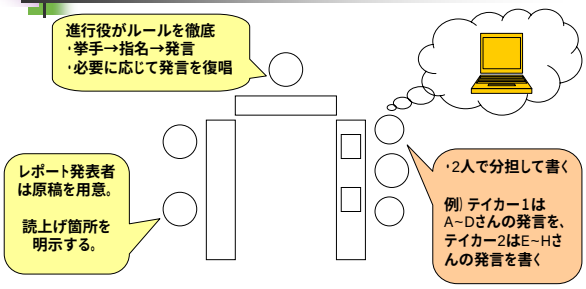
【教材の用意を依頼】

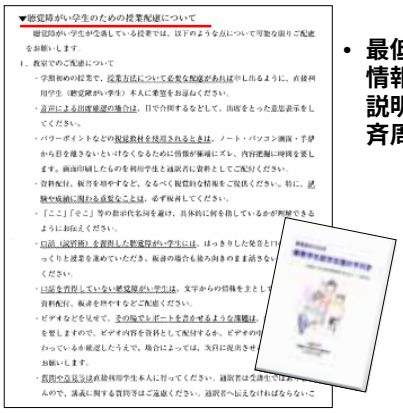
パワーポイント、スライド等は、コピーを用意してもらいノートテイクに活用

【話し方の配慮を依頼】

参照するページ数、図番号を明示する、指示語ではなく具体的な言葉で説明があるとわかりやすい

Q.ディスカッションや質疑応答に追いつけない　どうしたら書ける？





▼聴覚障がい学生のための授業配慮について

聴覚障がい学生が受講している授業では、以下のような点について可能な限りご配慮をお願いします。

1．教室でのご配慮について

・学期初めの授業で、授業方法について必要な配慮があれば※上出るように、直接利用学生（聴覚障がい学生）本人に希望をお尋ねください。

・音声による出席確認の場合は、目で合図するなどして、出席をとった意思表示をしてください。

・パワーポイントなどの視覚教材を使用されるときは、ノート・パソコン画面・手摩から目を離さないといけなくなるために情報が脱落にズレ、内容把握に時間を要します。画面印刷したものを利用学生と通訳者に資料としてご配分ください。

・資料配付、板書を増やすなど、なるべく視覚的な情報をご提供ください。特に、試験や成績に関わる重要なことは、必ず板書してください。

・「ここ」「そこ」等の指示代名詞を避け、具体的に何を指しているかが明確できるようにお伝えください。

・口話（読唇術）を習得した聴覚障がい学生には、はっきりした発音とロ
っくりと授業を進めていただき、板書の場合も後ろ向きのまま話さない
ください。

・口話を習得していない聴覚障がい学生は、文字からの情報を主として
資料配付、板書を増やすなどご配慮ください。

・ビデオなどを見せて、その場でレポートを書かせるような課題は、
を要しますので、ビデオ内容を資料として配付するか、ビデオの
わっているか確認したうえで、場合によっては、次回に提出させ
お願いします。

・質問や意見等は直接利用学生本人に行ってください。通訳者は受講生では
んので、講義に関する質問等はご遠慮ください。通訳者へ伝えなければならないこ

- 最低限の配慮事項、情報保障についての説明は、教職員に一斉周知を図る

ノートテイクのルールとマナー

関東聴覚障害学生サポートセンター
田中　啓行

「ルールとマナー」のポイント

○ノートテイカーは「通訳者」
⇒「通訳者」として守るべきルール
⇒「通訳者」としての役割

○十分な情報保障のために

○利用学生との関係

「通訳者」としてのルール

○「通訳者」として責任を持つ

◆守秘義務

◆体調、スケジュールの管理

ノートテイカーの役割

○「ノートテイカーの役割」
＝音声情報の伝達

◆音声情報の伝達とは？

◆「音声情報の伝達」以外の行為を控える

十分な情報保障のために

○通訳環境の整備

○自己の技術を向上させようという姿勢
⇒利用学生の意見を聞く

通訳環境の整備

○教員の協力を求める
◆利用学生とともに
◆事前資料の入手、視覚教材の準備、
配慮した話し方……

○職員、コーディネーターとの連携

利用学生との関係

○利用学生の主体性を尊重する

○意見を出し合える関係の構築
⇒ノートテイク技術の向上

個々に決めるルール

○利用学生の発言方法
○語学のノートテイクの仕方
⋮

「ルールとマナー」の進め方

○講義

○質問形式
○グループディスカッション

※現場で判断できるノートテイカーに

ノートテイカー養成の実際
～講座をきっかけに～

同朋大学　学務課　障害学生支援室
専門指導員　　瀬戸　今日子

ノートテイカー養成と運営方法

1. 支援体制を作っていくための関わり

2. 養成講座を軸に、運営を組み立てる。

(講座の開催･登録･派遣･フォロー
スキルアップ学習･交流･合宿など)

1. 支援体制を作っていくための関わり

◇養成講座で終わるのではなく、「始まり」と考える。

※講座を、いろいろな人と関わるきっかけにする。
①支援をする人(ノートテイカー)
②支援を利用する人(聴覚障害学生)
③講義をする人(教員)
④大学 (事務)職員
⑤在籍学生 (同じ科目の履修者)

①支援をする人 (ノートテイカー)

- 現場(講義)に応じた対処は、すぐには出来ない。
- 派遣のために、個々の情報を把握する。

派遣科目の状況をつかむ (「カルテ」の利用)
↓
困っていることを聞き、テイクがよりやり易くなるようにする (支援者のストレス軽減)

※スキル維持･アップのために、学習会などを行なう。

②支援を利用する人(聴覚障害学生)

- 利用者(個々)のニーズをつかむ。(「カルテ」利用)
  ※ニーズは、利用者の成長により、変化していく。
- 自分なりの利用方法を身に付け、自分の学習に活かせるようにする。

↓

支援についての知識を得る。
いろいろな対処法を、身に付けていく。
(学習会･利用者同士の交流･支援者との交流)

③講義をする人 (教員)

- 具体的な対処方法を伝える。

↓

文書などを作って、お願いをする。(資料)

- 利用者からの働きかけ

↓

効果が大きく、お願いとお礼を忘れない。
教員とコミュニケーションをとることで、講義が受け易くなる。

④大学 (事務)職員

- 「講義に関りのある課」「支援利用者と関わる課」から、理解を広げていく。
- 支援利用者からの働きかけ。

↓

関わりを持つ時 (「問い合わせ」など)に、筆談の必要性など、繰り返し、お願いをし続ける。

⑤在籍学生 (同じ科目の履修者)

- 支援することが、在学生の迷惑などに、ならないように配慮する。
- 行事で支援活動をし、少しでも多くの学生に、見てもらえるようにしていく。
  (入学式・オリエンテーション・講演会など)
- 支援の現場を見るので、支援者になることもある。

↓

活動の積み重ねが、支援者増加につながる。
(クチコミが、一番支援者増加に影響する。)

2. 養成講座を軸に、運営を組み立てる。(年度活動計画例)

活動項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
養成講座	実施	登録					実施 登録					
テイク活動		開始	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
活動前学習会		実施					実施					
休み前学習会				実施						実施		
後期前練習会						実施						
新年度学習会												実施
テイク利用学習	実施					実施						

3. 活動計画例に見る関わり

- 養成講座の受講者募集
- 支援者の登録・派遣
- 支援利用者の登録
- ノートテイク活動
- ノートテイクの使い方と科目対処
- 支援を利用する人と支援する人との関わり
- 先生(科目担当者)との関わり
- 大学(事務)職員との関わり

4. 養成講座だけで、終わらないために

- 毎日、情報の収集をする。

↓

支援者・利用者と、コミュニケーションをとる。

↓

ニーズの把握や変化・個々の成長に気付ける。

- 夏休み・春休みを利用し、「スキルアップ」や、「支援者と利用者、お互いの理解を深める」企画を行なう。

↓

学習会 ・ 合宿 ・ レクリエーション企画 など

5. 支援を続けていくために

- 支援に関する知識の獲得、情報の収集をする。
- 「支援活動」や、「支援利用」を、よりし易くする環境を作っていく。(人と人のコーディネート)
- あきらめず、繰り返し、伝え続けていく。
- 同じ仕事をやっている人と、交流する。

↓

大学に合った支援体制を考え、作っていく。
「支援」という枠だけでとらえず、人間成長の過程としてとらえるようにしていく。

ノートテイクの評価

太田晴康
(静岡福祉大学)

ノートテイク評価の課題と問題の所在

ノートテイク講習会における到達レベルを明確化するための評価基準の模索――

- 要約文の評価を数値化できないか。
- 手書きとパソコンノートテイクに共通する評価方法はないか。
- ノートテイカーの能力を名人芸にとどめることなく、技術として伝達できないか。
- 役割と責任範囲を明確にできないか。

元の話しことば

それでは始めさせていただきます。私は一応、進行をつとめさせていただきます中川町の町内会の幹事をおおせつかっております中林と申します。さて、本日の会合のテーマですが、先日来、懸案になっていました地域での要約筆記サークルの結成について、もう少し、話を進めたいと思います。実は、先週のことになりますが、９月11日、木曜日のことでした、中川町の有志が10人と言ってましたかね、そう10人、とにかく、集まりまして、ぜひ要約筆記サークルを作りたいという報告があったんですわ。

Aさんのノートテイク文

始めたい。
私は進行役の中川町内会幹事の中林。
本日のテーマが、懸案の「地域での要約筆記のサークル結成」について。
9／11(木)、中川町有志10人が集まり、サークルを作りたいとの報告があった。

Bさんのノートテイク文

それでは始めさせていただきます。
一応、進行をつとめさせていただく中川町幹事をおおせつかっている中林と申します。
さて、先日来、懸案になっていた要約筆記サークルの結成の話がありました。
実は先週、9月11日の木曜日のことでした。有志が自由に集まって、ぜひ要約筆記を作りたいというんですわ。

Cさんのノートテイク文

始めたい。
進行役、中川町の町内会幹事の中林だ。
さて、本日の会合テーマだが、先日来、懸案の「地域での要約筆記サークル結成」について、もう少し話を進めたい。
先週、9月11日、木曜、中川町の有志10人があつまって、要約筆記サークルを作りたいという報告があった。

採点の前提となる考え方

- ノートテイクを情報コミュニケーション支援における補完的方法として位置づける。
- 話し方や態度よりも話の内容に関する伝達の度合いを評価する。
- ノートテイカーの個別な技術的な課題(養成課題)を明らかにする。
- 採点基準となる数値に可変性をもたせる。
- 第三者による評価を可能とする。

(1)実用情報単位の絞り込みと採点

1. 始めたい。 ＝1
2. 進行役の／中川町の／町内会の／幹事、／中林だ。 ＝5
3. 本日の／会合の／テーマ、／先日来、／懸案の／地域における／要約筆記サークルの／結成について、／もう少し／話を／進めたい。＝11
4. 先週、／9月11日、／木曜日／中川町の／有志が／10人／集まって、／ぜひ／要約筆記サークルを／作りたいという／報告が／あった。 ＝12

29単位＝減点ゼロ 28～20単位＝10点減点
19～10単位＝20点減点 9単位以下＝30点減点

(2)大意と展開(骨組み)の明示

1. 話のはじまりの合図を明示する部分
2. 自己紹介の部分
3. 会合テーマあるいは集まりの目的を説明する部分
4. 状況説明あるいは背景を説明する部分

4か所＝減点ゼロ 3か所＝10点減点
2か所＝20点減点

(3)情報バイアス(誤認と過剰情報等)

なし＝減点ゼロ 1～5か所＝10点減点
6～10か所＝20点減点

(4)文法のまちがい

なし＝減点ゼロ 1～5か所＝10点減点
6～10か所＝20点減点

Aさんのノートテイク文の採点

始めたい。
私は進行役の中川町内会幹事の中林。
本日の【会合の】テーマが、【先日来】懸案の「地域での要約筆記のサークル結成」について。【もう少し】【話を】【進めたい。】
【先週、】9／11(木)、中川町有志10人が集まり、【ぜひ】【要約筆記】サークルを作りたいとの報告があった。

Bさんのノートテイク文の採点

それでは始めさせていただきます。
一応、進行をつとめさせていただく中川町【町内会の】幹事をおおせつかっている中林と申します。
さて、【本日の】【会合の】【テーマ、】先日来、懸案になっていた【地域における】要約筆記サークルの結成の話がありました。
【もう少し】【話を】【進めたい。】
実は先週、9月11日の木曜日のことでした。【中川町の】有志が自由に集まって、ぜひ要約筆記【サークル】を作りたいという【報告が】【あった】んですわ。

Cさんのノートテイク文の採点

始めたい。
進行役、中川町の町内会幹事の中林だ。
さて、本日の会合テーマだが、先日来、懸案の「地域での要約筆記サークル結成」について、もう少し話を進めたい。
先週、9月11日、木曜、中川町の有志10人があつまって、【ぜひ】要約筆記サークルを作りたいという報告があった。

採点表

	Aさん	Bさん	Cさん
実用情報単位	−10点 (21単位)	−20点 (17単位)	−10点 (28単位)
大意と展開	減点なし	減点なし	減点なし
情報バイアス	減点なし	−10点 (1か所)	減点なし
文法上のまちがい	−10点 (1か所)	減点なし	減点なし
合計	100−0 ＝80点	100−30 ＝70点	100−20 ＝90点

ノートテイカー指導者養成講座　資料集

2006 年 9 月 24 日

編著者　日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan)
ノートテイカー養成技術教材作成事業メンバー
代表　太田晴康（静岡福祉大学）
吉川あゆみ（関東聴覚障害学生サポートセンター）
中島亜紀子（関東聴覚障害学生サポートセンター）
土橋恵美子（同志社大学）
苅田知則（愛媛大学）
瀬戸今日子（同朋大学）
田中啓行（関東聴覚障害学生サポートセンター）
三好茂樹（筑波技術大学）
河野純大（筑波技術大学）
白澤麻弓（筑波技術大学）
発　行　日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan)
〒305-8520　茨城県つくば市天久保 4-3-15
筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター支援交流室聴覚系 WG

Copyright (C) 2006 The Postsecondary Education Programs Network of Japan
PEPNet-Japan は日本財団の助成により運営されている PEN-International(本部：ロチェスター工科大学 NTID 内)の活動の一部で、筑波技術大学によって運営されています。